第１回
今後の道路整備の方向性に関する検討委員会

日　時　　平成17年10月11日（火）10：00～12：00

＜　議　事　要　旨　＞

次　　第

１．開　　会

２．委員紹介

３．委員長選出

４．議　　事
(1) 委員会設置の目的と進め方について
(2) これまでの道路整備について
(3) アンケートの実施について

５．そ の 他

１．開会

２．委員紹介

●事務局より各委員の紹介

３．委員長選出

●事務局より設置要綱について説明

●設置要綱に基づき、北海道大学大学院工学研究科助教授 高野伸栄氏を委員長に選出

４．議事

４－１．委員会設置の目的と進め方について

●委員会の設置目的・進め方について事務局より説明

○札幌の場合は、集客交流都市ということを宣言している。ぜひ来札者ニーズを加えていただきたい。

４－２．これまでの道路整備について

●これまでの道路整備について事務局より説明

●各委員からの意見等

＜まちづくり・住民参加＞

○花植など市民が自発的に活動をしたいと思った場合、その窓口がわかるような広報をした方がいいのでは？

＜歩道・生活道路＞

○ドイツでは、交通量が少ない道路を歩行者優先にして、道路の有効活用を図っている。車のスピードを7km/hに制限し、車と歩行者がお互いに意識しながら共存を図っている。札幌市においても、こうしたドイツの事例を参考にしてはどうか？

○エリアを決めて実験的に実施してみるのも良い。札幌市では、国の補助を受けあんしん歩行エリアの整備を 9 地区で限定実施しているが、その他の地区においても札幌市が先導して検討して頂きたい。

○日本の安全の考え方は、自己責任という考えが余りなかった。その結果、行政としては歩道と車道を分けて、車道を歩いて事故にあった場合はその人に責任があるという対応をとろうとしていた。事故に対する責任の違い、文化的な違いを考えていかないといけない。

＜自転車＞

○自転車はどこ走ったらいいか迷う。交通手段としての自転車の位置付けをはっきりする必要があると思う。

○自転車道は、郊外部の自転車専用道路と、都心部の自転車・歩行者道がある。この自転車・歩行者道でないところは、法律的には自転車は車道を走らなくてはいけないが走りにくいため、実際は歩道を走っているのが現状。

○自転車の走行は、歩道か車道かという二者択一ではなく、安全性を考慮しその場所・場所で決めなければならないと思う。ミュンヘンでは、この場所では歩道を、ここでは車道をというように分担している。安全・スムーズに走れる自転車道の整備は、道路の使い方の中で考える必要が出てくるのではないかと思う。
○デンマークでは車道を走行するのが一般的。札幌とでは意識が違うので、その辺をもう一度考え、自転車はどちらを走行すべきか検討する必要はある。また、公共交通機関に自転車を乗り入れるような仕組みも検討しては？
○都心部では、バス停付近に多くの自転車が駐輪している。バス事業者としては、バス停周辺の駐輪対策が必要と感じている。
○交通の円滑化という視点では、違法駐車対策、荷さばきが重要。駐車している車や荷さばきしている車が無秩序になると、当初思っている理想的な車の流れや道路の使い方ができない。法律では荷さばき時間を5分と定めているが、こうした現状を踏まえ、駐車禁止にすべきかどうかを含めたまちづくりを考えなければならない。

＜除雪・雪＞
○除雪については、市民とのルールづくりについてモデル地区を選定して検討している。
○例えば市内の公園に融雪溝を作るなど、長期的な雪対策が必要。
○除雪は札幌市の永遠の課題である。他の予算が削減されていく中、除雪費は少しずつ増えている。融雪溝を作るには多大なお金が必要となる。現実的には、機械で除雪、排雪するのが一番安い。
○コスト削減のためにロードヒーティングの中止はやむを得ないが、本当にやめてよかったのかどうか、今後の道路維持管理のあり方としてしっかり評価しておくべきではないか。

＜渋滞＞
○駅前通りは、駐車禁止地域にもかかわらず駐車しているためスムーズに動けない。もう一つは信号の連結が問題となっている。そのため、創成川のアンダーパスで先詰まり渋滞が発生している。
○特に冬期はどうしても幅員が狭くなるため、交通容量が減ってしまう。感知器を使って車の様子を見ながらネットワークを組んでいるが、全てをスムーズに流すのは難しい。
○道路と信号は一体に考え行かないといけない。
○歩車分離の信号機は交通事故防止にもなり良い。交差点での渋滞もかなり緩和していると思うので、本当に必要なところには優先的に整備してほしい。
○歩車分離の信号により失敗した例もある。三越や丸井周辺で設置しているが、少し流れが悪くなったというバス事業者の声もある。今後、バランスを考えて実施すべき。

４－３．アンケートの実施について
●２月に実施したアンケート結果、今回実施するアンケート案について事務局より説明
●各委員からの意見等
○60歳以上を対象とした補足アンケートですが、老人福祉センターでは難しいのでは。町内会を通じて実施してはどうか。また、障がいのある方のニーズを把握していないというのが気がかりなので、目の御不自由な方、車いすの方にもアンケートを実施してほしい。
○冬期アンケートで、ある程度の結果は把握できる。もし、アンケートを実施するのであれば、来札者という観点でアンケートを実施すべきでは。

○道外客を対象とするなら、設問の工夫が必要である。障がいのある方は、札幌市のバリアフリー基本構想を策定する際に相当意見を聞く場を持ったり、アンケートを実施しているので、それで反映できていると考えている。
○来訪者アンケートは、インターネットではなく、今来ている人に直接聞く、北海道から帰ってきた人に聞くというのが一番いいと思う。
○アンケートは二つの方法があると思う。被験者の回答を事前に予測して検証するタイプ、もう一つは、何もわかっていない中で手がかりを模索するタイプの2つ。冬期アンケートは、前者であるので、もし、夏期に実施するのであれば後者の切り口で実施すべき。大事なことは、今後の10年後、20年後、30年後の札幌市の道路整備について、今何に手を打たなければいけないのかということを考えるべき。そのための情報やキーワードを入手するためのアンケートであれば賛成する。
○冬期調査の結果はかなり偏っていたため、この結果だけで市民のニーズを判断するのは不充分である。
○ヤフーの調査は瞬時に安価にできるため、その前後比較を含めて実施したいと考えている。来外者については、全国的なモニターに対して調査を検討したい。障がいのある方は、できる範囲で聞き取ることを検討する。
○冬期と同じ内容ではなく、夏は夏の課題を取り出して実施したほうが良いのでは。夏として聞きたい部分を詳細に聞いてみるなど。

第２回
今後の道路整備の方向性に関する検討委員会

日　時　　平成17年12月27日（火）9：30～11：30

次　　第

１．開　　会

２．議　　事

(1) 第１回検討委員会での御意見とその対応

(2) 各種調査結果について

・６０歳以上の市民アンケート調査結果について

・障がい者団体によるフィールドチェック結果について

・来札者の満足度調査結果について

(3) 道路整備に対するニーズのまとめ

(4) これまでの道路整備に対する評価

(5) 問題・課題の整理（案）

３．そ の 他

議　事　要　旨

１．全体を通して

◆雪問題について

・雪に関する問題・課題が明示されていない。問題・課題の整理として必要では。
・ロードヒーティングについて、入っている所と入っていないところがあるが、その理由が市民には伝わっていない。どのような基準で判断しているのか情報開示してほしい。
・ロードヒーティングを止められたバス路線が相当数あり、その影響について乗務員の聞き取りを実施する予定である。こうした意見も参考に、必要な箇所は復活させるなど事後評価を実施してほしい。
・雪問題については、広報さっぽろ等を利用してお知らせしている。ロードヒーティングを中止した箇所では、融雪剤をまいたり除排雪を強化し、ロードヒーティング区間と同じ感じで通行できるように努めているが、もう少し市民に分かりやすく情報提供できるような工夫が必要であると認識している。

◆事業の評価について

・電柱の地中化率は、整備の割合が進んでいるかどうかはわかるが、他の事業はそこが抜けている。個別事業の前後で満足度が上がったというのは分かるが、市の全体的なレベルがどうなったのかが分からない事業もある。

◆今後の道路整備の方向性について

・人と車が今後 10 年後、20 年後、30 年後どうなっていくのかをある程度予測しながら今後の道路行政の方向性を考えるべき。
・今後の道路整備の方向性を検討するにあたり、総合的なテーマを設定したい。

２．問題・課題の整理（案）について

◆問題・課題のテーマ設定

・６つのテーマで問題・課題を整理しているが、どうしても来札者のことが気になる。６つのテーマを市民と来札者に分けて議論すべきか、来札者というテーマを別に立てるのか、その辺りを整理する必要があるのでは。
・来札者という特有の課題として別項目を立てたほうが分かり易いのでは

◆交通円滑化

・この書きぶりだと「まだまだ道路整備は必要です」というふうにも読み取れるので表現の工夫が必要では。観光バスなどが自由に走行ルートを選択できるような仕組みなど、ハード整備とは異なる対策もあるのでは。
・夏と冬では、渋滞に対する満足度の質が異なると思う。冬の場合、目的地までの残り時間などが気になるので、そういう情報を知ることができれば納得する市民は多いのでは。そういう意味では適切な道路情報の提供が重要になる。
・バス事業者や地下鉄の市営交通など、各事業者間の連携、協力体制づくりが重要。
・流雪溝の整備延長が増えている。倶知安町では、商店街の方やガソリンスタンドでは利用してが、

個人では利用しなくなってきている。特にお年寄りは大変。今後、高齢化が進み、流雪溝を利用せず雪が残ってしまうのでは。
→地域が一帯的に利用してくれれば効果は非常に高いが、非協力的な方への強制力は行政にはない。

◆安心・安全

・安心・安全な歩行空間は、雪道と夏では環境が異なる。雪道は安定が悪く歩きづらいので、安心・安全に歩けるような工夫・対策が必要。
・車と自転車と歩行者をきちっと分離することが重要であることは明らかだが、簡単に道路や歩道を拡幅できるものではない。短期的には、利用者への情報提供・PR を、中期的には道路整備を考えなければならない。
・看板、自動販売機などを歩道に極力置かないようにできれば空間を確保できる。そのためには、地域の住民・企業との協力が必要。
・自転車の乗り方、ルール、マナーといった教育が必要。
・最近、自然災害が増えているので、防災・減災対策についても触れてほしい。

◆環境

・京都議定書のことが書いてあるが、札幌市としての具体的な目標がわかるような表現に工夫すべきでは。
・札幌らしい街路樹の選定をお願いしたい。アカウンタビリティという観点からもその選定プロセスを説明して欲しい。街路樹の説明看板を付けてほしい。

◆まちづくり

・「交通結節点の整備に対する満足度は高く・・」とあるが、既に整備したところに対し満足度が高いのは当たり前。一方、60 歳以上の市民アンケートでは、「公共交通機関のスムーズな乗り継ぎ」に対するニーズが高い。これらを踏まえた問題・課題の整理が不充分では。
・事業の早い段階から市民が参加できる検討の場をたくさん作って欲しい。
・アダプトプログラムについて初めて知った。今後、参加団体を増やすような PR、仕組みづくりを行い、市民と一体となってまちづくりができるような環境づくりが必要。

◆公共交通支援

・例えば JR 札幌駅などは、地下鉄への案内が相当分かりづらい。道路行政として対応していくのか
→道路行政のみならず、交通事業者の方も経営戦略が必要。雪祭りに合わせ、駅名にイニシャル表示・番号表示を行う予定である。
・公共交通の利用案内は、外国人にやさしい案内というよりも普段利用している自分たちでも分かりにくい部分がたくさんある。地下鉄、バス事業者それぞれに乗り方のルール・方式が異なり、外国人のみならず市民にとっても分かりづらい面がある。事業者間の連携を図りながら、利用しやすい公共交通利用のルールづくりが必要。
→毎年、そのような認識は強く持っているが、財政的な事情、過去の慣習など事業者の様々な事情があり難しいのが現状。出来る部分は徐々にやっている。
・「駐輪場整備が進められているが市民満足度は低い」とあるが、評価では、「乗り継ぎ目的の自転車利用者が増加」と記述してある。文章の整合を図るべきでは。

・「利便性向上」とあるが、本当に何がネックになっているのかを議論すべき。個人的にはハード的な問題ではなく、ソフト的な問題だと思う。
・来札者のレンタカー利用が増えているがそれでいいのか。公共交通の利用促進を図るような施策を行うべきでは。
・バスや地下鉄に乗っている時に、例えば「○に行くにはここから地下鉄に乗って下さい」というようなインフォメーションがあれば利用しやすくなるのでは

◆その他

・道路工事のうち、かなりの部分は水道、下水道、ガスなど道路そのものの工事ではないが、そのことについて多くの市民は理解していない。アカウンタビリティという観点からも、市民への広報・PR は今後の大きな課題である。
・財政難であることを市民に説明するしかない。
→お金がない訳ではなく、お金がかかることがいろいろあるということ。どういうお金がいつの時期にかかるのかというのを提示していかなければならない。
・優先順位を決め情報公開を行い、市民に納得してもらうことが大事。

第３回
今後の道路整備の方向性に関する検討委員会

日　時　　平成18年2月23日（木）13：30～15：30

次　　第

１．開　　会

２．議　　事

(1) 第２回検討委員会でのご意見とその対応
(2) 現状の評価と今後の方向性
(3) 市民ニーズから見た今後の道路整備におけるテーマ・方向性（案）
(4) 道路整備の方策と具体的な施策例

３．その他

今後の予定について

４．閉　　会

議　事　要　旨

１．第２回委員会の対応資料について

◆ロードヒーティングについて

・ロードヒーティング停止後の事故データを入れた方が、より安全性の精度が上がると思う。
　→事故データは道警にあるので確認・検討します。
　→データは参考資料として扱う。
・今年はじめて、下り坂２箇所のロードヒーティングを停止した。明日、関係機関を交え、ロードヒーティング停止箇所の現場検証を行う予定。
・摩擦係数の 0.25 という基準は坂道での基準か？確認して欲しい。平坦な道路も含めた一般的な基準のような気がする。
・凍結防止剤撒布による環境への影響を資料に盛り込んでは？
　→分かり易い資料を追加する。
・ドライバー・歩行者・自転車の心理学的な要素を踏まえた道路整備の方向性を考えないといけない。

◆CO2 削減に向けた札幌市の取り組みについて

・平成 29 年には基準年（平成 2 年）の 10%削減を目標としているが、この 10%の根拠を教えて欲しい。10%は低いのでは？公共交通の利便性を高くして、公共交通の利用促進を図ることにより、この数値を上げられるような気がする。
　→10%は決して低い目標値ではない。非常に厳しい目標である。

◆札幌市の道路行政における基本的姿勢

・「利用交通機関別割合の推移」のグラフ、2015 の推計値は報告書に出さない方が良いのでは？これまでの実績値だけのほうが良いのでは？「個人輸送機関」、「大量輸送機関」の表現が分かりづらい。

◆札幌市の緊急輸送道路及び橋梁の耐震補強について

・どの位の震度で大丈夫という分かり易い基準はあるのか？
　→阪神大震災規模の地震に耐えられるような補強をしている。

２．現状の評価と今後の方向性について

◆交通円滑化

・「関係機関との綿密な連携・・」について、開発局、道など他の行政機関との連携を密にし、行政の枠を取り払った検討が必要。また、道路だけではなく JR、バス、地下鉄、市電など公共交通サービスを含めた全体の検討が必要。
・「綿密な連携を図りながら・・」について、情報の共有化が必要。既に連絡協議会を立ち上げている。
　→こうした事例を参考資料として掲載する

◆道路行政マネジメント

・経済効率性２つ。道路が地域経済にどう寄与するか？いかに安く建設するか？今後、建設から維持へシフトしていくなか、アセットマネジメントの考え方が重要。

３．市民ニーズから見た今後の道路整備におけるテーマ・方向性（案）について

・テーマが印象に残らない。キーワードがない。「住んで良し、訪れて良いまちづくり、道づくり」、「ホスピタリティ表現」がキーワード。ホスピタリティをどう表現していくか？　キーワードは「道」を表現すること。道路を作っていく上で行政は何を表現するのか？　簡単に言えば、利用者に対するサービス精神あふれる道づくり、ハード優先主義からソフト優先主義へシフト。

・「まち」という表現が抽象的でわかりずらい。道路を「みち」の表現しては？

４．道路整備方策と道路利用者ニーズの関係

・ニーズを市民（60 歳以上・未満）、来札者に分ける必要はないのでは？

５．報告書の取り扱いイメージ

・報告書のポイントは６つ。読みやすい、分かり易い、楽しい、サプライズがある、覚えやすい、短い。

第４回
今後の道路整備の方向性に関する検討委員会

日　時　　平成18年3月31日（金）10：00～11：30

次　　第

１．開会

２．議事
(1)第３回検討委員会でのご意見とその対応
(2)まとめ
・委員会の経過と主なご意見
・市民ニーズから見た今後の道路整備におけるテーマ･方向性(案)
・報告書(案)について

３．これまでの検討委員会を通じて各委員からの感想

４．閉会

議　事　要　旨

１．全体を通して

◆融雪剤（ＣＭＡ）などについて

・環境にやさしいＣＭＡを今後増やす傾向にあるといったことを触れると、市民は安心するのではないか。
　→ＣＭＡは非常に高価であり、現状の使用量が最大と考えている。
　→現状の融雪剤散布において、懸念された下水処理場への影響や街路樹への影響は出ていない。よって、諸外国で行っている中和剤の散布は行っていない。
・環境に良いものを使っていくということは、札幌市が環境に配慮している都市ということでアピールしても良い。
・歩道上の滑り止め用の砂はどうやって清掃するのか。
　→目立つところは（人力で）清掃をしている。

◆新しいテーマ及びテーマが意図する「想いが伝わる」について

・具体化していく手段が十分かどうかの懸念があるが、非常に新鮮で良いテーマとなった。
・テーマは良いと考える。情報公開は一方的な発信で終わることが多いので、市民との双方向での情報交換ができる仕組みができれば良い。
・札幌市には、市民の問い合わせや苦情を受けるセンターがあったと思うが、苦情についてはどう処理しているのか。
　→苦情等は集計して関係部局に送られてくる。それをもとに今後の施策に反映するシステムづくりをしている。また、公表もしている。
・すすきの地区と定山渓地区での取り組みについてはもっと詳しいものにしたほうがいい。
・「伝え方・つなげ方」のところに関係機関との連携体制についての文言を入れた方が良い。
・道路整備について、国内外の事例とか雰囲気が伝わるイラストや写真があった方が、見た人のイメージがしやすく内容が伝わりやすい。こういうやり方があるとか、これもいいなという写真を入れても良い。
　→例えば、安心歩行エリアで住民とワークショップをしたり、まち歩きをしたりした時の写真があるので入れたい。）
・安心歩行エリアについては、概念図やイラストを入れていただきたい。

◆道を利用するルールについて

・自分の立場からみると、「円滑」に関する部分が少し足りないと思う。歩行者や自転車なども含め、道を利用する側の心構え、ルール、責務といったものをもう少し入れても良いと思うが、全体として良い内容にまとまっている。
・法律ではない使う側のルールをもう少し入れ込んだ方が良い。

◆本報告の公開・提示方法について

・本報告の配布先はどこか。簡潔なものをいろいろなところに配布してほしい。町内会にも配ってほしい。
・まずは見やすいものを作成し、特に小中学校に配ってはどうか。

・本当に理想のイラストを全面に出して、将来の道路像としてできるできないは別にしても、そういうイラストを使うことによって、イメージ的にアップするというのも非常にいいことだなと思う。スピードが出せないような道路構造などの広報もやっていけば、非常にＰＲアップになる。

◆その他

・市民向けのところには、やっぱりマナーを守ってくださいみたいなことを、強く思いを伝えていいのではないかと思う。公共交通の利便性も向上はしているので、しっかり使ってほしいということを言ってもいいかなと思う。
・インフラに関する説明、取扱説明書みたいなものを利用者というか市民に向けて作るべき。どうしてこういうふうになっているのかとか、そういうことがなかなかわからないので、その辺は想いを伝えるという部分なので、行政もその辺が重要だと考える。

３．これまでの検討委員会を通じた各委員からの感想

・民間の方がこれほど多い会議は初めてであり、それらの方々の話が聞けて非常に良かった。
・個人的にも非常に勉強になる会議であった。情報の共有化は非常に重要である。
・各委員の方々が出された意見だとか、非常に勉強になった。特に市民アンケートの結果などは、我々の生活の上で非常に参考になるし、いい経験をさせてもらった。今後は、全体を通した道路を中心とした交通体系のあり方みたいなものの検討をしていかなければならない。
・市民は道には興味ないが、道の駅には興味がある。先ほどの定山渓の地域づくりのレポートを見ていると、道の駅構想があるというふうに書かれていたので、これは千載一遇のチャンスだなと思う。つまりこの定山渓での道の駅づくりにおいて、札幌市民の道とか道の駅に対する興味、関心を喚起させるということは、道とは何ぞやということを市民の方々に考えていただけるいいチャンスである。道の駅は、一般の札幌市民の意見もきちんと聞きながら、あるいは巻き込みながらつくってほしい。
・車主体である道路から、人をどのように道路の中で生かしていけるかといったことを非常に強く感じた。行政だけにまかせず、行政と市民がさらに連携をとってやっていけば、ＮＰＯの活動とかもうまくリンクさせていく場面がさらに増える。時代の変化に合わせてこういう会議が継続、その場に応じてつくられていくことを望みたい。
・子供たちが、この道通ったよねと思えるような道ができて、そのような情緒のある人間がどんどん育っていくような札幌市になってくれるといい。
・ニーズとか課題をまとめることに関して、一通りデータから議論できたということは大事なことである。さらにそれをどう伝えていくかというような話が、テーマも含めて議論になったのは意義がある。
・「想いが伝わる。想いをつなげる。」という非常に目新しいテーマが出てきた。テーマをつくっただけで終わりにしないように、行政の方がこのテーマをかみしめていただきたい。テーマというのは、意外にこういうものを頭に乗せると、今後の書きぶりも少しずつ変わってくるのでたいせつにしてほしい。
・本報告書の内容は、当初想定していなかった以上の、非常に広範囲で深みのあるものだと考えている。その場所、場所に応じて、必要に応じて部分的に切り出して、わかりやすく説明するという方法が一番大事なことである。「想いが伝わる。想いをつなげる。」という、この検討委員会の想いを伝えるように、つながるように努力をしていきたいと考えている。